

若手三税理士の税理士法人設立に見る 新時代の会計事務所のあり方

税理士法人グッドパートナーズ会計事務所
代表社員 税理士・中小企業診断士 高橋和宏
代表社員 税理士 苅谷悦利
税理士 小原義光

二つの会計事務所が合体して税理士法人となったグッドパートナーズ会計事務所(岐阜県岐阜市)。しかも、代表社員である二人の税理士、高橋税理士と苅谷税理士はともに二代目。そこに小原税理士が加わるという、その創立は数ある税理士法人の中でも異色なケースだ。顧客、社員双方のしあわせを考えることを経営理念に掲げて発足1年半が経つ同税理士法人の若手三税理士に、法人設立のメリットについて聞いた。



同年齢税理士3人が 税理士法人設立

—— まずどういういきさつでこのような形の税理士事務所の法人化に至ったのか、お話しいただけますか。

高橋 苅谷とは、もう10年ほど前から知り合いなのですが、5年ぐらい前から、将来どうなるのか、一人の事務所ですべてやっていたのかという話を常にしていました。一人の力には限界があるので、これからは複数の税理士でやっていた方がいいと無理じゃないだろうか。そこで最初は、共同事務所にしようかとか、一つのフロアにいれば、何か問題に当たっても共同で解決できるんじゃないか等、話し合っていたのです。たまたま、法改正で税理士法人制度ができたので、いろいろ考えて、やはり一緒にやるなら税理士法人の方が使い勝手もいいのではないかと、ということで法人になりました。

—— 苅谷先生はいかがでしたか。

苅谷 私は父親の病気をきっかけにこちらに帰ってきたので、1、2年は目の前の仕事に一生懸命でした。高橋とは、同じ資格、同じ仕事、二代目で同じ年という点がそろっていました。そ

して、ゴルフ、食事、飲み、という交流の中でこのような話が出ました。まずは勉強会をやるうかということ、事務所に通いに1〜2度集まってやってきた。それがまず下地としてあります。高橋とはいろいろな面で話がしやすいし、一緒にいても双方疲れることがなかったんですね。

私自身は、個としては弱いと思っています。一人でも大きくやれる人はやっています。でも個と個が集まれば、また違う面が出てくる。世の中の流れで税理士法人の要求があるということ、は、もう個人営業では無理だということではないかと考えました。私は、父の病気を契機に、帰ってきてそのまま仕事を引き継いだので、何をやるにしても、自分で決めて自分でやらなければなりません。ですから、この話に関しても、それほど反対はされませんでした。

高橋 私の方は、最初話したときはムっとされました(笑)。しかし、いろいろ話途中で税理士法人の話が出てきて、父も、「ああ、そういう流れなんだな」と理解してくれました。

——これを機に、今後の事務所のあり方について突っ込んだ議論がなされ

たわけですね。

高橋 でもやはり人の要素が強かったですね。パートナーになるのが苅谷さんだと話したら、親も税務署のOB同士ということで知っており、「ああ、苅谷さんか」と…。

——そこに、小原先生もパートナーとしてお入りになった。先生も年齢が同じと伺っておりますが、参加されるきっかけは何だったのですか。

小原 20年間、名古屋の会計事務所に通っていたのですが、その所長が病気で亡くなり、事務所が閉鎖しました。そこで私は岐阜へ戻ることになりました。うちは、子どもが女の子ばかりでもあり、私が独立しても跡を継ぐ者がいないだろうという状況です。それなら独立するよりも、どこか会計事務所に勤めた方がいいだろうと思いました。苅谷は、小・中・高校と同級生なんです。それでいろいろと相談に乗ってもらったところ、ちょうどこういう計画があるということで、設立から参加させてもらいました。

——いろいろな問題が起きたときにも皆で解決に向かえると…

苅谷 当面は、そこが一番の利点だと思います。当初は私たち二人でやって

みて、さらに税理士がほしいと言っても、もう少し年齢的に下の人を考えていました。定年のことを考えていくと、同じ年齢は良くないと思ったのです。しかし、小原の話が出たときに、高橋に話をしたら、即戦力ということもあり、それで行こうと決めました。今は、3人がいろいろなポジションを持ってやっています。

お客様と1対1のつながりを大切にしたい

——税理士法人になったことについて、お客様の評価はいかがですか。

高橋 最初は、「私は高橋税理士にお願いしているんだ」と言っていて、とまどわれるお客様もいました。それは当然のことだと思います。でも、問題が起きたときに、一人の税理士ではなく複数の税理士の目で見られること、万が一私の身に何かあっても、税理士法人という体制をとってれば、業務を継続できることなど、丁寧に説明すれば、逆に、頼もしく思ってくださいお客様がほとんどでした。ですから、マンモス事務所にはしないということをおひとりの方針として、人との1対1のつながりを大切にしていきたい。高橋とい



高橋 和宏 税理士

う人間を見てお客様になってくれたわけですから、そういう関係は壊さない。そのように説明しています。

—— 大きな事務所になると、今までのようなきめ細かい対応をしていくようになるんじゃないか、料金が上がるんじゃないか、お客様にそういった不安を持たれる可能性もありますね。

荻谷 実際、大きな事務所では、先生がすべて見ることは物理的に不可能ですから、代わりに従業員が見るようになるのですが、極力それは減らしたい。お客様からは、「会社の組織の中に入ってきて欲しい」「役員会に顔を出せないだろうか」というニーズもあります。法人になる前にグループを組むと言ったら、早くやれと言ってくれる方もいました。反面、年配のお客様のところでは、社名がカタカナになったものだから、「ほんとうに私が払っている顧問



荻谷 悦利 税理士

料、あなたのところにいくんか」ということも言われた(笑)。自分たちが置いてきぼりにされるんじゃないかと感じる方もいます。そういう人には、何も今までと変わっていないことを丁寧にご説明しています。

理念は「しあわせ」の実現

—— 建物を見るとあまり会計事務所らしくない。

荻谷 「〇〇会計事務所」という看板はやめました。だから通り過ぎてしまう人もいるんですが…

高橋 会計事務所らしくないところにこだわがあるんです。

荻谷 理念も、「しあわせを考える」などという大きなものにしてしまっています。「当社ではこういう仕事ができます」と言っても、税法だって時代とともに変わっていくわけですから、我々



小原 義光 税理士

の仕事自体も変化していかざるを得ない。それなら、みんなの手をつないで幸せを目指して頑張っていこう。パートナーという社名のとおり、そういう思いで、理念を「しあわせを考える」にしました。それは、事務所の外でも中もということですよ。

—— 社員さんはもちろん、お客様とも幸せを共有していこうということですね。

荻谷 残業すればより多くの利益を生むかもしれない。しかし、それが必ずみとして、今の子どもたちに影響を及ぼしているんじゃないでしょうか。やはり家庭のことも考えなくちゃなりません。ですからなるべく残業はしないようにしたい。そういう部分からも変わっていこうと思っています。

—— 気持ちよく働ける職場は必ず生産性が上がる。環境整備は極めて重要

がるので、「しばらくはこういうふうにいきたい」と言っても、なかなか理解してもらえないところがあります。

荻谷 現場でやっているほうにすれば、「じゃあこれはどうしたらいいの」という声も出てくる。それで混乱していることは重々承知しているのですが、なんとしても乗り切ってもらわなければと思っています。私たちが無理を言う反面、皆さんのいろいろな無理も聞きながらということ、毎月、面談という形で30分ぐらい時間をとって一人ずつ話をしています。

—— トップの思いを職員に伝えることは重要ですね。お客様に生き生きと自分の事務所を語る職員を育てる必要がある。

荻谷 私たちの考え方を理解して継いでくれる人に、次の世代をパトנטアツチしたいと考えています。個人事務所では、自分の子どもに事務所を継がせようなどと考えがちですが、私たちは法人化したと同時に、自分のもの、という考え方は捨てました。

地域に貢献できる会計事務所に

—— 最後に、4、5年後のグッドパートナーズの事務所像をお聞かせ下さい。

荻谷 私は営業のほうを担当しますが、外に向かつての話になります。通る一遍の業務をこなすのではなく、名前の通り、お客様とパートナーになって、経営のコンサルタントになる。今の時代は会社の業績も低迷しがちですが、そのような会社でも「あそこの会計事務所と付き合えば良くなる」「あそこには何かある」と言われるようになりたい。また、こちらから営業しに行くのではなく、向こうから「見てもらえませんか」と言ってこられるぐらいの事務所になっていきたいと思っています。

—— そして、内側でサポートしていただけるのが高橋先生ということですか。高橋 もちろん、お客様第一なのですが、事務所内では、従業員が幸せに働けることが一番重要です。当事務所では、働き方やスキルを身に付けるやり方に、こうでなければならぬ、というものはありません。能力や性格、家庭の事情でこれ以上は無理、という限界もあります。そういう中で、自分が何を選択して、事務所の中でどのような役割を果たしていくかということをはっきり持った人ならば受け入れる、そんな環境を作っていくたい。どんどん勉強して難しい仕事をやりたいとい

う人もいるし、勉強は苦手だが数をこなして効率よくするのが得意という人もいる。一人ひとりを見て、能力や性格に合った仕事を与えていければと思います。組織はピラミッドではなくフラットですから、要望は直接来ますので大変なんです（笑）。

小原 まだできて1年半の法人です。で、昔の荻谷会計事務所、高橋会計事務所という気持ちの抜け切れていない部分が多々あります。職員も、私たちもそうです。4、5年後には、グッドパートナーズ会計事務所として「あそこはこういう会計事務所だよ」と言ってもらえるように、地元で少しでも貢献できるような会計事務所になることができればいいと思っています。

荻谷 小原は、立場的に連絡調整役です。私たちは血はつながっていませんが、兄弟みたいなものです。喧嘩もしますが、その代わり翌日はまた「おはよう」から始まるということにしています。もつと言ひ合える仲、というのも一つのあり方かとも思いますが、喧嘩はないに越したことはないですね。

—— 3人の先生方が良い役割分担をされている感じがします。今日は大変貴重なお話をありがとうございました。